

熱く 羽ばたけ 大潟っ子

白鳥



校長通信
大潟村立大潟中学校
令和4年11月24日(木) 発行
NO.7 文責:安田 和人



読書週間「この一冊に、ありがとう」

今年の読書週間は10月27日から11月9日までの2週間でした。今年度の図書委員会では、新刊の紹介に加え、ビブリオバトルやPOP s コンテストなど積極的な活動が行われています。

私も本が好きで、特に動くことが少なくなる秋から冬にかけて、色々なジャンルの本を読んでいます。「読書の秋」の由来は、古代中国の唐時代の詩人、韓愈の漢詩にあるという説が有力です。その詩は、韓愈が息子に学問の大切さを述べたもので、その一説に『灯火親しむべし』があります。意味は、『涼しく夜の長い秋の夜は灯火の下で読書をするのに適している』ということです。この言葉は、夏目漱石の「三四郎」という小説にも出ており、新聞連載当時多くの読者が、秋は読書にふさわしい季節だというイメージをもつようになったと言われています。

読書は、自分の人生では味わうことのできない、他の人の人生を体験できたり、時空を超えて、過去や未来の世界を体験できたりもします。また、歴史上の人物と知り合うこともできます。小説の中の様々な場面で、登場人物の考え方や気持ちを知ることにより、現実の日常生活の中で自分の言動に生かしたり、人の気持ちを想像したりしやすくなります。さらに、現実にはありえない状況や世の中の暗い部分を見ることもできるでしょう。

小説に限らず、本は多くの人の知恵や知識が凝縮されています。正しい日本語、美しい日本語という点でも、著者だけではなく、編集者や関係者が何度も何度も書き直し、言葉を選んで完成させたものです。インターネットやソーシャルメディアで表現された文章では学べない言葉や表現を学び、語彙力や表現力を高めることができます。そして、読書は皆さんの人格を高め、人生を豊かなものにしてくれるものだと思います。

次の文章は、ある学校の図書館で学校司書として働く人が、なぜ自分はこの仕事を選んだのかという質問に答えたものです。

「・・・私は本が大好きなので、学校司書になりました。好きになったきっかけは、お母さんから『本を読むと心に羽が育つよ』と言われたからです。『本の形は、開くと鳥の形になるでしょ？読めば読むだけ、強くてしなやかな羽になるのよ。強くて美しい羽で、本当に好きな人たちに会うために羽を育てるのよ』という話を聞いたのを今でも覚えています。皆さんにも、心の羽を育てるために、たくさんの本を読んでほしいと願っています。・・・」



読書より、ゲームをしたり動画を見たりする方が好きだという人もいます。しかし、上に記したとおり、本に出会い、本を読むことで、多くの楽しさや面白さを味わうことができます。これは、人間だけに与えられた特権です。3年生は受験勉強のまっただ中ですので、長い時間読書をするのは難しいと思いますが、この先、皆さんが読書週間のタイトルにあるように「この一冊に、ありがとう」といえるような本に出会えることを願っています。



人権について「喜ばせごっこ」

霜月も下旬となり、朝夕の冷たい空気がいよいよ冬の到来を感じさせる頃となりました。

さて、来月12月10日は国際連合が定めた「人権デー」です。それを受け、わが国では毎年、12月4日から同月10日までを、「人権週間」と定めています。その期間中、人権に関する人々の意識を高め、平和で、優しい社会をつくるため、全国各地で様々な啓発活動が展開されることとなります。

しかし、いじめや児童虐待、インターネット上の人権侵害、感染症や障害等を理由とする偏見や差別、ハンセン病問題など、様々な人権問題が依然として存在しています。特に最近のいじめは、多様化が進み、情報通信機器の介在により、いじめが一層見えにくくなっている実態も見られます。

また、いじめはささいな行為から危険を伴う行為へつながることも少なくないことから、人権の観点からも重視すべき課題となっています。いじめをする子どもやいじめを見て見ぬふりをする子どもが生じる原因や背景には、子どもを取り巻く学校、家庭や社会環境等が複雑に絡み合った問題がありますが、その根底には、他人に対する思いやりやいたわりといった人権尊重意識の希薄さがあると言われています。

本校では、道徳の時間を含め、普段から折にふれ「思いやりの心」や「かけがえのない命」について考える場を設けて、「人への優しさ」を育てるように指導しています。表題にある「喜ばせごっこ」とは、アンパンマンの作者であるやなせたかしさんが、人間は何が一番嬉しいのか、楽しいのかと考えて、たどり着いた答えだそうです。また、やなせさんは次のような言葉を残しています。

『人は、人が喜んで笑う声を聞くのが一番うれしい。だから、人が喜び、笑い声を立ててくれる漫画を長く描いてきた。自分が描いた漫画を読んで子どもたちが喜んでくれる。その様子を見て、自分がうれしくなる。こうして喜ばせごっこができることが本当に幸せだ。』



【困っている人がいたら、助けられる人でありたいですね】

「いじめをしない」ということよりも、一歩進んで「相手の喜ぶことをしよう」という視点で周りの人のことを考え、みんなで「笑顔と感動のあふれる大潟中」の実現を目指していきたいものです。

ご家庭でも友人関係や学校の様子などについて、お子さんと話す機会をもっていただきたいと願っています。また、何か気になることや心配なことがあれば、遠慮なく学校にご相談ください。

保護者の皆様へ「3学期制」について

本校では、来年度以降の3学期制の導入について検討しています。以前実施されていた3学期制(学期毎に年3回通知表を配付)ではなく、評価は現状どおり2回(通知表配付2回)のまま、学期のみ長期休業を挟んでの3学期制に変更するという事です。理由としては、コロナ禍における授業時数の確保や学期間に長期休業があることによるメリハリ、生活リズムが作りやすいことなどが挙げられます。また、季節ごとに目標を段階的に設定し、成長を子ども自身が実感できることや、確保した時数を各行事や部活動の大会前に費やすことができるようになると考えられるからです。評価については、約半年に一回ずつ実施している現在の年2回の方が、評価期間が違う年3回の実施に比べて信頼性、妥当性が高いと思われます。

ご意見やご質問がある場合は、今月中に配付する保護者向け学校評価アンケートにご記入くださいますようお願いいたします。ご意見等も参考にしながら、教育委員会、学校運営協議会、学校で協議の上、最終的に判断したいと考えています。いずれにせよ、大潟村の子どもの学びのために何が大切かという視点で検討していきますので、ご理解ご協力のほどよろしく願います。

